

平成 30 年度第 1 回
愛知県職業能力開発審議会議事録

愛知県職業能力開発審議会議事録

1 日時

平成 30 年 9 月 12 日（水）午後 3 時から午後 5 時まで

2 会場

名古屋高等技術専門校

3 出席者

[出席委員 13 名]

郡山玲、塩澤陽子、菅原俊彦、堤一宏、木村亜樹、猿渡智佐登、本田勝久、丸山洋子、横井延年、小倉祥子、田中早人、仁科健、山岸敬子（敬称略）

[欠席委員 2 名]

中島裕子、高綱睦美（敬称略）

[事務局 7 名]

産業労働部労政局長 藤田昇義、産業労働部労政局就業推進監 中島紳裕、
産業労働部労政局産業人材育成課長 日高啓視、同課主幹 田中英二、
同課課長補佐 大谷正英、同課課長補佐 小川裕二
名古屋高等技術専門校長 吉田和裕

4 議題

第 10 次愛知県職業能力開発計画の進捗状況について

5 審議内容

事務局から出席状況の報告を行い、本日の審議会が有効に成立していることを確認した後、山岸会長から会長以外の議事録署名人に郡山委員を指名した。

その後、事務局から資料 1 に基づき、会場である名古屋高等技術専門校（以下「名古屋校」という。）の施設、訓練内容の概要説明を行い、施設の視察を行った。

施設視察終了後、第 10 次愛知県職業能力開発計画の進捗状況について、資料 2 に基づき事務局から報告し、意見交換を行った。

（質疑や意見等）

委員：（第 10 次愛知県職業能力開発計画の内容について）しっかり研究・分析を行い、対策を行っていると感じた。中小企業は、人材教育・補填に苦しんでおり、そこに重点を置いている印象。ただ、新卒者に着目した内容かと思う。実際の企業では、新卒者に限らず、色々な階層の労働者の方に仕事に従事していただく。次の段階では、新卒者以外の階層の人たちが求職・転職する際の補助があるといいと思う。

もう一点、企業の課題として、身障者の方の雇用率安定化がある。どういう方をどのように雇用するか、業界によって採用し易い・採用し難い職種がある状況であるので、うまく（企業と身障者の方を）橋渡しする機能があるといい。そうすれば雇用率も上がり、企業にとっても有難

い。また、身障者の方は固有の配慮・訓練が必要であるので、そのことを産学で研究できればいいと思う。

委員：「産業人材育成連携コーディネーター派遣」について、コーディネーターによる訪問数が106件とあるが、愛知県内の中小企業と比較して、かなり少ない。訪問先はどのように決めているのか。

事務局：調査やアンケートの際に、人材育成に困っていると回答した企業に対して、電話をしてアポを取り、コーディネーターが企業へ伺い相談に乗るということをしている。また、高等技術専門校6校にも伺い、それぞれの企業概要があるのでそれも参考にしている。人材育成のニーズのある所へ電話をして、良ければ訪問する、という方法である。

委員：もう少し踏み込んで積極的に動いたほうがいい。中小企業から、「(人材育成の相談を)どこに問い合わせたらいいかわからない」という意見をよく聞く。恐らく県のこういった取組を知らない企業が多い。意味のある取組をしているので、もっとPRをしたほうがいい。

事務局：チラシ配布を増やし、人材育成の相談はこちらへ問い合わせしてほしいというようにしていきたい。

委員：(第10次愛知県職業能力開発計画の内容について)大変整理されており、このような形で実施できれば素晴らしいと思う。また、公共訓練の拠点校である名古屋専門校を本日視察させて貰い、素晴らしい施設であると感じた。訓練の内容も、訓練生も、今日我々が視察に来るので、真剣に授業を受けていたと思う。施設は立派であるので、しっかりと、訓練生を指導していただきたい。

委員：高校の先生の企業見学会は、企業としてありがたいと思う。高校生の新卒の採用面接を行った際、志望動機を尋ねたところ「先生から紹介があった」という理由であり、こうした取り組みがあったからこそ、先生の後押しがあったのだと思った。

また、障害者雇用について、当社にも2名いるが、正直この先不安である。(障害雇用者の)体力・気力が落ちてきているので、それをフォローする機関があればいいと思う。

委員：(第10次愛知県職業能力開発計画の内容について)中期的目標を持っており、感心した。特に、「小・中学校教諭のモノづくり企業見学会」について、我々も先生の十年目研修の受け入れを行っており、その際に、

こういった取り組みや2014年に技能五輪が愛知県で開催されたことを知らなかった、という意見を聞く。生徒や児童に感心を持って貰うためには、先生に知って貰うこと、(もし可能であれば)2019年、2020年の技能五輪愛知県連続開催にお手伝いしていただく等して、先生に気づいていただくことが、生徒・児童に繋がっていくので、重要であると思う。

また、「モノづくり離れ対策の推進」について、我々も一緒に、どうしたらモノづくりに関心を持って貰えるか、を考えていきたい。我々は技能五輪の支援をしているが、(受検者は)資格を取ることが目的となっており、モノづくりが好きかどうかには直結していない。どうしたら、(資格を取得し、モノづくりができるようになることにより)嬉しさを感じ、モノづくりを好きになって貰えるか、の施策を(官民が)一緒に考えていければいいと思う。

そして「STEM教育」について、もっと高度なレベルで、また、なぜそれをしなければいけないか、そして、言われたことをただ行うのではなく、一体となった教育の中で、自分で考えて行動できる人材を育成していくことについても、一緒に考えていきたい。

委員：名古屋高等技術専門校を見学させていただき、良い施設だと思った。安心した。

「ポータルサイト『ひと育ナビ・あいち』」について、平成29年度のポータルサイトのトップページビューが16,565件とのことだが、もう少し増やしていきたい。使い勝手は良いので、(ひと育ナビ・あいちの)サイトにどう誘導するかがポイントである。例えば、リンクを張ったりと、色々工夫ができるかと思う。何とか、(ひと育ナビ・あいちを)広めていく方法を考えて欲しい。

委員：名古屋高等技術専門校は良い施設だと思う。(「高等技術専門校の見直し・機能充実」について)この校舎をしっかりと活用し、企業と連携しながら、時代のニーズに合った内容で、的確に進めていけば、人材は集まってくると思う。

ただ、もっとアピールすべき。内容は充実しているので、うまくアピールする手段・方法を、真剣に考えるべきだと思う。企業すら知らない、という状態であるのは勿体ない。企業も存在を知れば、参画を希望する可能性がある。我々も力を貸すべきかと思う。どういうやり方がいいかを考えながら、攻めの姿勢で(官民が)協力して行っていきたい。

委員：名古屋高等技術専門校は、素晴らしい施設だと思った。

女性の活躍推進について、(実施した事業で)「職場見学バスツアー」とあるが、これはどういう内容か。実際にどのように行ったか興

味がある。もっと積極的にPRを行うと良いと思う。

委員：名古屋高等技術専門校は、加工についてもしっかりと、製図から指導しており、素晴らしいと思った。

私の出身のJAMは100人以下の労働組合が60%以上加盟している金属・加工産業の産別であり、その中で「ものづくり伝承事業」を厚生労働省より数年間、委託していた実績がある。その中で、課題としては、これから就業につこうとする学生において、ものづくりに対する就労感が不足しているということがあり、金属機械業界において、就業へのニーズがミスマッチしている。

そこで、(第10次愛知県職業能力開発計画の中の)「人材育成・能力開発に向けた関係機関(産業界、労働界、教育界等)の連携強化」をしっかりと実施していただきたい。私は安全衛生の労働局の委員をしているが、そこで感じるのは、行政は良い取り組みをしているが、それが経営者に伝わっていない。我々労働組合は、企業と協議する機会があるので、その際に、(行政の)こういう事業や取り組みがあると企業に提案し、人材不足等をカバーしていきたいと思う。我々に連絡していただければ、中小企業の労働組合の委員長に伝え、企業のバックアップする手助けをすることができるので、ご協力をお願いしたい。

委員：名古屋高等技術専門校の加工系の指導員の方が「現場で即時にリーダーになる人間を育てている」と言っていた。技能や知識を名古屋高等技術専門校で教えることはもちろんだが、それ以上に何かリーダーシップを育てるための取り組みは行っているのか。もし行っているなら、教えていただきたい。

事務局：リーダーシップの件について、先ほど指導員が申し上げたことは、こういった技術を身に付けることにより、(職場で)中心的役割を果たす人物になって欲しいという意味である。専門校の中で、特にリーダーシップを育てるというカリキュラムは設けていない。

委員：(第10次愛知県職業能力開発計画の中の)「キャリア教育・職業教育の推進」について、女性の技術系・理系の分野での活躍促進という視点で意見申し上げる。本日、見学させていただいた名古屋高等技術専門校でも、各学科の学生は男性が多かった。一般的に、男女で学びの興味・関心の違いがあると思われているが、ジェンダー規範による分離もある。そこで、性別にとらわれない能力の育成は必要である。その点から、「モノづくり離れ対策の推進」は、強化しているという印象を持った。さらに回数を増やす、身近な所で開催して貰えると良い。理系や化学・工学

は男の子のものという思想にならないように、小学生の頃から等、学びの早い段階で、抵抗なく触れる機会を増やすといいと思う。

また、多くの委員から、教員がモノづくりを知ることでモノづくりの現場への就職に繋がる、という話があった。先日、別の会議で、理系女子の就職チャンスを増やすために、子育てをしている親に向けての教室やイベントがあると聞いた。そうした教室のように、(モノづくり関係の就職を増やすためには) 対象を子どもに限定せず、広く子育て世代の親たちに向けてのアピールがあると良いと思う。

委員：(名古屋高等技術専門校を見学させていただき、) ハード的にも立派な設備が整っており、教員・スタッフの方も技術的に充実されているという印象。第10次愛知県職業能力開発計画の進捗状況については、ひとつひとつ目標に近づいているというものもあれば、もう少し、軌道修正が必要なものもあるのではないかと思う。

また、お話を聞いていると、私は大学の人間であるが、連携はとても重要であると思う。この名古屋高等技術専門校も大学で使わせて貰いたいと感じた。個人的に注目しているのは、愛知県立愛知総合工科高等学校であり、そちらは高大連携というものができる施設であると思うので、それを進めて欲しい。人材育成は産官学の連携でやらなければ難しい所がある。大学にいる側の人間としては、(県から) ご意見を、例えばこういう教育に対して何かリソースはないか等言っていただければ、大学としてもありがたい。今は連携、連携の時代なので、企業や金融機関のリソース等も活用し、第10次愛知県職業能力開発計画を進めるうえで、産官学の連携について考えていただければと思う。

委員：委員の皆様のご意見をお聞きして私が思うのは、せっかく(県が) 色々な取組をしているのに、意外と知られておらず、とても勿体ないと感じた。県はアピールが苦手なのかもしれないが、どうしたら県民の皆様が知ることができるようになるかをコミュニケーションしていただき、(第10次愛知県職業能力開発計画は) 良い取組なので、もっと有意義に使っていただきたいと思う。

また、委員の皆様の御意見を聞いていて、(人材育成で) 課題となっているのは、「中小企業」、「障害者」、「モノづくり離れ」についてであると感じた。県や国に、ぜひ、そういったことに実効性のある取組のアピールをお願いしたい。

それ以外にも、今日は、委員の皆様より様々な有益な御意見があったので、ぜひ、今後の計画等に役立てていただきたいと思う。

委員：委員の皆様より御意見いただいたが、他に事務局から意見はあるか。

事務局：質問させていただきたい。最近の傾向として、人手不足の問題は顕著になっている。生産性の向上による人材の有効活用や、特に IoT や AI に対応した人材育成の確保が課題となっているかと思う。私共も、この名古屋高等技術専門校で新しく「組み込みシステム科」を始めるが、委員の皆様への IoT、AI、生産性の向上についてのご認識やあるいはそれぞれの職場での取組でアドバイス等があれば、ぜひ、お話いただきたい。

委員：組み込みシステムは、あまり大学ではやらないと思われる。そういう意味では、そういう所をフォーカスし、新しいプログラムを作ったということは有意義であると思う。

また、今、学会やシンポジウム等で IoT といえばすぐ人は集まる。昔からこのあたりの地区は改善意欲が高く、現場力も高い。今後、問題を見える化する技術が、IoTによりデータとして普及していく中で、「気づき」を得るためには、どういう視点が必要かを考えるべきだと思う。もちろん AI を始め道具を使うことも重要であるが、基本的な気づきを得るには、どういうデータが必要であるのか、どういう見方をすればいいのか、そういう教育が必要なのではないかと思う。IoT の時代になって色々なデータが入ってくるので、そこが今より更に必要になってくると感じる。

委員：現在、事業を推進する中で、将来の人手不足に備えて、単純作業を人から機械に置き換えていくことが一つのコンセプトとなっており、我々はそれを事業として販売、ソリューションとして提案している。今日、(名古屋専門校を) 拝見し、製図・加工に重点をおいている印象である。これはモノづくりの基本であり、なくなることであると思うが、一方で自動化が進み、単純な所は機械に置き換わっていくと、教育する内容が、変化していくと思う。当社もそうだが、電機・機械両方の知識を持って単純な作業者というよりは、機械・システムのオペレーションができる、あるいは設備のメンテナンスができる人たちを残していったら、作業する人々は機械に置き換えていこうという動きになっている。よって、教育・訓練も、より高度なものが求められていくのではないかと、そしてそこにどう持っていくかが重要であると考えている。

ただ、私はたまたま規模として大きな会社に勤めているのでそういう点で先行していると思うが、私どもの協力会社等の実態を見ると、そこまですぐ行かないというのが正直なところである。これから人手不足が進んでいく中で、投資ができる大企業とそうでない中小企業との格差が開いていくと感じる。大企業では高度な機械オペレーターが求められる一方で、中小企業では、個人的技能者が求められてくるのではないかと。より幅広い対応が求められると、能力開発等の対応も拡大する必要があるが、恐らく資源も人も限られているので、どこにターゲットを置かなければならないかを考える必要があると感じる。その中で IoT の位置付けを考えることが重

要である。

ただ、大企業は企業の中で育成等を自社内で取り組んでいくケースも多く、行政は、地域を支えている中小企業をターゲットにするべきだと考える。だとすると、IoT はどこまで進んでいくのか、世の中のスピードの中でどういう形で進んでいくのかということばかりに着目していると、地域を支えている中小企業の実態が置き去りになってしまうのではないかという懸念がある。

IoT による業務革新は確実に進行していくと思われるので、かかる点から相応の能力開発サポートには取り組むべきであると考えますが、一方で完全自動化への道も険しく、当面の間、中小企業の技能者が産業を支えていくことも間違いないと思われるので、かかる点での能力開発サポートも継続していただきたい。

委員：私は、モノづくり事業の訓練に携わっており、IoT に直接関わることはないが、理屈をしっかりと、なぜ IoT を行うかを考えることが重要だと思う。事業を進める際、技能者と技術者に分けて考えているが、お互いの考えを理解したうえで、何を行うかを変わらず普遍的に考えなければならない。それぞれの仕事の中で、IoT が求められていくのであれば、なぜそういうことをするのか、それがどういう方向でいくのか、を考える必要がある。例えば車の場合、自動運転の技術が必要なのであれば、技能としては何が必要で、なぜなのかという所を考える必要がある。我々は訓練期間の中で、考え方のところを徹底的に訓練しており、どんな業務の職場でも、それを活かすことができる。IoT だけのところに、今やっていることをやめて置き換えるということは、現状ではない。

委員：我々の企業において、現在、異常品を感知する画像検査機の開発を行っている。その際に感じたことは、現在では、確かに資本力のある企業が AI 等の取組を行っているが、将来的には、そのプログラムを組む人材が不足するのではないかということ。現在でもそのような人材は不足傾向であるので、将来を見据え、プログラムを組める人材を育成するため、教育カリキュラム等に含める等の措置を取ってもいいのではないかと思う。

事務局：本日のお話を伺い、労働者・障害者・女性等様々な方の観点からの訓練・教育が必要だと感じた。また、キャリア教育の対象者は、小・中・高校生と幅広く行っていたが、先生や親御様に向けた取組が必要であるとわかった。県の PR が下手という意見もあったが、皆様に力をお借りして、PR に努めていきたいと思う。SNS としては、「ひと育ナビ」という、県内の人材育成情報を発信するサイトもあるので、ぜひ企業、学校等でも PR していただき、多くの方々に活用していただきたいと思う。